

区政Now！（令和5年11月号）

「区政は区民を幸せにするシステムである」…西川太一郎



季節性インフルエンザの流行が例年よりも早く始まり、拡大傾向にあります。東京都感染症情報センターの発表によれば、10月下旬の時点で、都内の中でも荒川区内の感染状況は高く、警戒すべき水準に達しています。日夜の寒暖差が大きくなり、体調を崩しやすい時期でもあるため、体調管理には十分お気を付けくださるようお願いいたします。また、手洗いや咳エチケットを意識していただくことで、新型コロナウイルス感染症の感染予防にもつながりますので、ご協力をお願いいたします。

インフルエンザが流行、区内で警報基準に達しています

- ◇ インフルエンザの患者数が区内で大幅に増加しています。10月16日から10月22日までの1週間で、定点医療機関からの感染報告者数(※)は、35人を超え、警報基準に達しました。
- ◇ また、区内の複数の小・中学校で学級閉鎖も発生しています。今後、さらに感染が拡大する可能性もありますので、予防接種や手洗い等の感染対策をしっかりと行いましょう。特に、持病のある方や高齢者、お子さん、妊娠中の方は重症化しやすいため十分な注意が必要です。
- ◇ インフルエンザの症状は、38℃以上の高熱・頭痛・関節痛等です。似た症状がある場合には、早めに医療機関を受診し、こまめに水分補給をするなどして、できるだけ安静にしてください。

※ あらかじめ決められた定点となる医療機関(定点医療機関)から報告された感染者数をもとに算出した数。疾病により基準値が決められており、インフルエンザの場合、10人/週で注意報基準、30人/週で警報基準が発信されることとなっています。

予防のポイント

外出後は手洗いをする

- ▶ 流水・石鹸による手洗いやアルコール消毒は、ウイルスを除去するために有効です。

適度な湿度管理・換気をする

- ▶ 冬季は加湿と十分な換気が重要です。

休養とバランスのとれた食事をする

- ▶ 体の抵抗力を高めるために、十分な休養と栄養バランスのとれた食事を心がけましょう。

人混みを避ける

- ▶ なるべく人混みを避け、人混みに入る場合は、マスクの着用等で予防しましょう。

咳エチケット

- ▶ 症状がある方はマスクをすることに加え、個人が咳・くしゃみをする際にはマスクやティッシュ・ハンカチ、袖などで口や鼻をおさえましょう。特に電車や職場、学校など人が集まる場所で実践することが重要です。

高齢者等ハイリスク者は、予防接種をする

- ▶ 接種後、効果がでるまで約2週間かかります。早めの接種をおすすめします。
- ▶ 新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンは同時接種可能です。

区の窓口で利用できるキャッシュレス決済サービスが増えました

◇ 10月2日から、区の窓口での支払いで交通系電子マネーに加え、コード決済やカード決済等が利用できるようになりました。

利用可能なキャッシュレス決済の種類

- ▶ 【コード決済】 au PAY、d払い、PayPay、メルペイ、楽天ペイ
- ▶ 【電子マネー】 交通系電子マネー、nanaco、楽天Edy、WAON、iD
- ▶ 【カード決済】 JCB、Visa、Mastercard



二次元コード

利用できる窓口

- ▶ 区役所の戸籍住民課・税務課、各区民事務所、荒川ふるさと文化館、ゆいの森あらかわ等
- ※利用できる窓口・対象の手続き等の詳細は、荒川区ホームページをご覧ください。

【HP】<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a045/cashless/210921.html>

町屋駅前に図書返却ポストを設置しました

◇ 9月21日から、町屋駅前に新たに設置した図書返却ポストの利用を開始しました。図書返却ポストは、令和元年度に設置した日暮里駅東口の図書返却ポストに続き2つ目となります。

- ◇ 各図書館で借りた本や雑誌の返却ができます。なお、返却期限を過ぎている場合等は直接図書館カウンターへ持参してください。



北海道くしろのふれあい祭りが開催されました

◇ 10月28日から2日間、日暮里駅前イベント広場で、特別区全国連携プロジェクトの一環として、「北海道くしろのふれあい祭り 秋の収穫祭」を開催しました。コロナ禍で会場での開催を中止していましたが、オンラインストア販促キャンペーン等でくしろ地域とは連携を続けており、今回4年ぶりの開催となりました。

イベントの様子

- ▶ 北海道釧路管内8市町村(釧路市、釧路町、厚岸町、浜中町、標茶町、弟子屈町、鶴居村、白糠町)が出店し、花咲ガニの鉄砲汁や黒毛和牛の鉄板焼き等の実演販売が行われたほか、じゃがいも詰め放題のイベントや、鹿肉の加工食品、乳製品等の特産品等が販売され、終始賑わいを見せていました。
- ▶ 当日は区内外からたくさんの方々が訪れ、くしろ地域の特産品に舌鼓を打っていました。



会場の様子

～特別区全国連携プロジェクトとは～

全国各地域がともに発展・成長し、共存共栄を図ることを目的に、特別区(東京23区)と全国の各地域が連携・交流事業を行う取組として、特別区長会が立ち上げたプロジェクトです。